

令和6年度



逸品



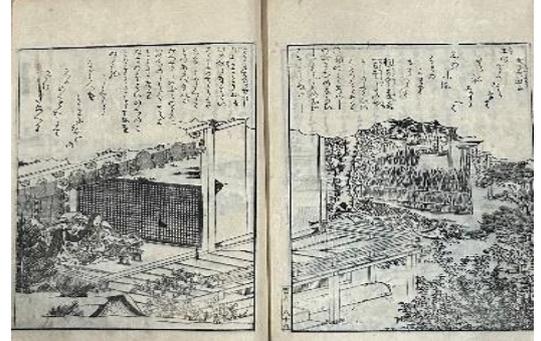
～エントランス無料企画展示～

逸品展とは、当館エントランスホールにて、齋宮秘蔵のお宝を一品ずつ掘り下げてご紹介する展示です。

第1回 『百人一首』とふたりの齋王

期間 令和6年5月21日(火)～8月23日(金)

『百人一首』に見られる賀茂齋王(齋院)の式子内親王と、その姉で伊勢齋王だった亮子内親王(殷富門院)の姉妹は後白河院の娘で、源平合戦の時代を生きた齋王でした。式子内親王は歌人として知られ、亮子内親王に仕えた女房の殷富門院大輔とともに、その歌が『百人一首』に採られています。二人の齋王の人生から、戦乱の世の高貴な女性たちの生き方をご紹介します。



『百人一首図会』

第2回 博物館学芸員をめざす 学生たちが企画した展示です!

期間 令和6年8月25日(日)～12月20日(金)

博物館学芸員の資格取得をめざす学生たちによる展示です。各大学から集まった学生たちが展示テーマを相談し、博物館収蔵資料の中から選んだ資料の展示を行います。どのような展示になるか、お楽しみに。



過去の展示風景

第3回 伊賀からもたらされた土器

期間 令和6年12月21日(土)～令和7年3月21日(金)



「安」刻書須恵器杯蓋

史跡齋宮跡東部にある方格街区の倉庫群である「寮庫」の区画から、「安」と線刻した須恵器が出土しています。このような「安」刻書須恵器は、伊賀国府跡や他の伊賀市内の遺跡からも出土しており、齋宮と伊賀との関連がうかがえる遺物です。この展示では、この須恵器からみる平安時代初めの齋宮を考えます。

第4回 近世伊勢街道沿いの幻の仏堂

期間 令和7年3月22日(土)～5月16日(金)

令和5年度に、近世の参宮街道沿いで現在の竹神社前の交差点付近で発掘調査を行ったところ、『伊勢参宮名所図会』(寛政9(1797)年)などの史料に「大ほとけ」や「阿弥陀堂」と記された仏堂とみられる遺構や遺物が見つかりました。発掘成果と文献記録が合致する数少ない事例です。近世の参宮街道のすがたが偲ばれる展示です。



調査で見つかった甕や瓦、近世陶磁器類

